

⑤「身近なところから考える地域の課題と解決策」

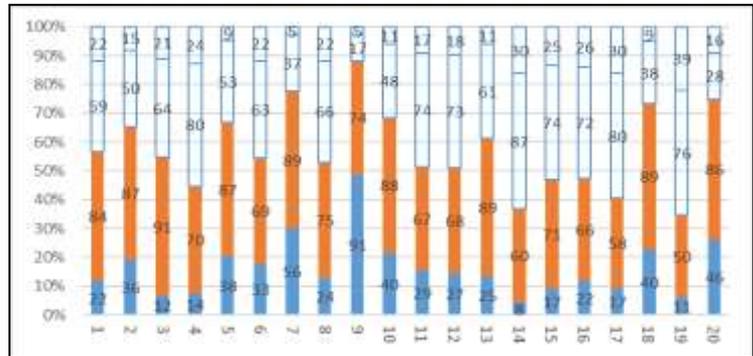
- (1) 日程 令和2年2月13日(木) 14:30~16:20
- (2) 場所・対象 本校大講義室・1学年198名(3学科合同で実施)
- (3) 仮説・ねらい

課題設定や解決プロセスの決定方法、多様なステークホルダーが協働するプロジェクト構築、コミュニティデザインの実践を生徒同士がデザイン思考を取り入れたグループワーク形式で学ぶことにより、自ら課題を発見し解決する基礎力を養成するとともに、創造的な課題研究のテーマ設定のきっかけとする。

(4) 内容

小布施町地方創生推進主任研究員の宮透先生を講師に、課題設定の方法や課題解決のプロセスを決定する方法論や良いディスカッションのルールを学び、3人1組や6人1組のグループワークにより体験した。1学年3学科の生徒が合同で実施するワークショップは初めての試みであった。

図4-5 ⑤「地域の課題と解決策」評価(3学科)



(5) 評価

73%が「課題研究への意欲が高まった」と回答した(図4-5)。課題研究のテーマ設定時期に探究科で実施していたもの(探究基礎)を普通科とスポーツ科学科(SS1)に波及させることができた。また、全体的に探究科に比べ普通科・スポーツ科学科の方が肯定感が高かったことから、普通科・スポーツ科学科も課題研究に対する意識が高まってきているといえる。また、探究科では「仲間とともに学習を深めることの大切さを理解した」91%は今年開催した5回の講演会の中で最高の値となった(表4-1)。

表4-1 探究科の評価

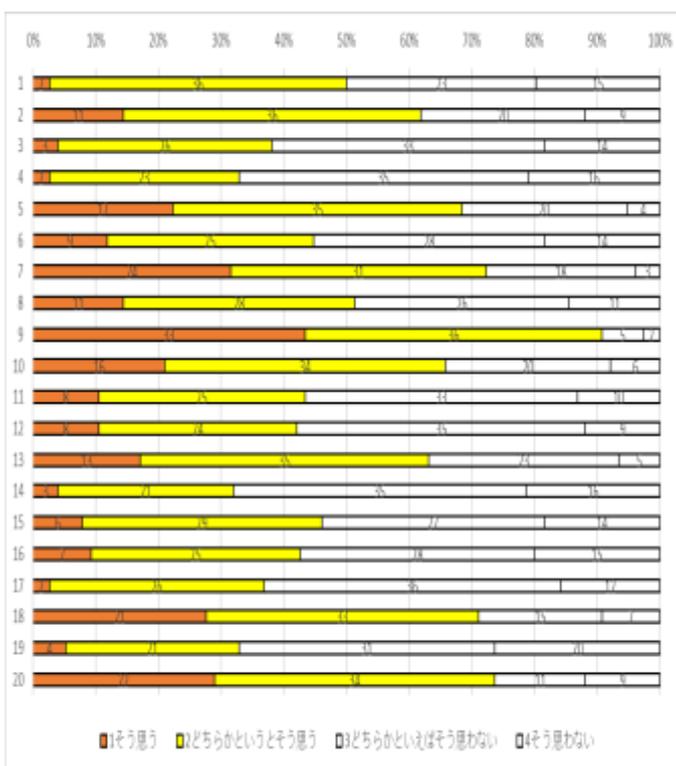


表4-2 普通科・スポーツ科学科の評価

